

第1回小林市議会高校生議会 会議録

日 時

令和7年2月10日（月曜日） 午後1時15分～午後3時55分

場 所

小林市議会議場

出席議員（高校生）

小林高等学校	西 隆吾 議員	小林秀峰高等学校	月野 愛由 議員	小林西高等学校	中原 亜莉寿 議員
	下村 陽紀 議員		指宿 琉斗 議員		岡原 陽生 議員
	松田 凜音 議員		黒木 琉稀 議員		假屋 結斗 議員
	鶴田 美紘 議員		中嶋 悠乃 議員		川畑 健瑛 議員
	温水 華凜 議員		永田 結愛 議員		
	吉藤 勇帆 議員		長嶺 陽向 議員		
			川西 咲希 議員		

欠席議員（高校生）

小林秀峰高等学校	大溝 威於 議員
小林西高等学校	大木場 咲彩 議員

出席議員（市議会）

司会・ 広報広聴委員長	堀 研二郎	議員	有木 将吾
議長	吉藤 洋子	議員	押領司 剛
副議長	鎌田 豊数	議員	前田 隆博
議員	小川 真	議員	貴嶋 憲太郎
議員	能勢 誠	議員	竹内 龍一郎
議員	野田 利典	議員	舞田 重治
議員	松嶺 勇一	議員	原 勝信
議員	永野 雅己	議員	大迫 みどり
議員	金松 勲	議員	高野 良文

欠席議員（市議会）

議員	橋本 律子
----	-------

議会事務局出席者

事務局長	松元 総子
主幹	四元 祥子
主幹	高原 隆一郎
書記	入木 真由美
書記	岩城 真伍

来賓

宮原 義久 小林市長
大山 和彦 小林市教育長

2月10日（月） 午後1時15分 開始

～オリエンテーション～

堀研二郎広報広聴委員長 定刻となりましたので、ただいまから第1回小林市議会高校生議会の始めさせていただきます。初めに主催者を代表し、吉藤議長が挨拶申し上げます。

吉藤洋子議長 皆さんこんにちは。小林市議会議長の吉藤洋子でございます。本日は大変寒い中、市内三つの高等学校から小林市議会にお越し頂き、誠にありがとうございます。また、今回の開催を快く受け入れていただき、御協力頂いた学校関係者の皆様方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

さて、本日は、小林市議会において初めてとなる高校生による一般質問形式での模擬議会、第1回小林市議会高校生議会を開催いたします。この高校生議会は、国や自分の暮らす地域の問題を自分たちの問題と捉え、解決策等を検討し、政治に反映させる議会の仕組みを学び、体験してもらうことで、高校生の政治に対する興味、関心、政治への参加意識の醸成につなげるとともに、高校生との交流による議員の新たな政策発見や、主権者教育推進の機運の向上につなげることを目的としており、昨年8月の高校生との意見交換会を経て、今回の実施に至ったところです。本日は、各高校から1名ずつ議長を選出し、交代でその役職を担い、小林市議会の一般質問の形式に則って、高校生議員の皆さんがそれぞれご自身で考えた質問を行い、それに市議会議員が答弁する形となります。初めての試みとなることから、私自身も大変楽しみであると同時に、緊張もしております。しかしながら、この議場に高校生議員としてこられた将来有望な高校生17名と、このような場を設けられたことは、私たち議員にとりましても、今後の市政発展につなげるよい機会になるものと期待しております。

限られた時間ではありますが、この高校生議会の取組が皆さんにとって実りあるものとなりますようお願いしまして、御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。
令和7年2月10日、小林市議会議長 吉藤洋子。

堀研二郎広報広聴委員長 ありがとうございます。

次に、来賓を代表して小林市長 宮原義久様から御挨拶を頂きます。

宮原義久市長 皆さんこんにちは。第1回小林市議会高校生議会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げさせていただきます。

本日の高校生議会は、本市で初めて開催されるということで、市内三つの高等学校から17名の生徒の皆さんに参加を頂きました。大変うれしく思います。ありがとうございます。皆様ご承知のとおり、近年の各選挙における投票率は低下の一途をたどっておりまして、昨年10月に実施された衆議院議員選挙における投票率は、3年前の同選挙を5ポイント下回る46.04%となっており、国民の、特に若い世代の選挙離れや政治に対する関心の低下が顕著となっております。

このような中、未来を担う高校生の皆さんが自分の住むまちについて真剣に考え、意見を述べる機会が設けられたことは、市政運営を担う我々にとっても大変貴重な機会であり、また、高校生の皆さんにとっては輝かしい将来への第一歩につながる意義ある体験となることと思います。

高校生の皆さんには慣れない場で緊張されるかもしれませんが、自分の思いを伝えられるよう、挑む気持ちで、落ちついて臨んでください。

結びになりますが、本日の開催にあたり、学校関係者の皆様の御協力に敬意を表しますとともに、高校生議会の成功を祈念して、挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお

願いいいたします。

堀研二郎広報広聴委員長 ありがとうございます
ました。

ただいま御挨拶頂きました宮原市長のほか、
本日は、小林教育長 大山和彦様にも御臨席
頂いております。

大山和彦教育長 皆さんこんにちは。このよ
うな環境、このような場所ですね、自分自
身の意見を述べるということは本当に貴重な
機会だというふうに思います。

緊張されていると思いますけども、日頃学
ぶることとか考えていることを、しっかりと
意見として述べていただければなというふ
うに思います。頑張ってください。

堀研二郎広報広聴委員長 公務御多忙の中、
誠にありがとうございます。

それでは開会までしばらくお待ちください。

～開会・一般質問～

岩城真伍事務局長 ただいまから第1回小林
市議会高校生議会の会議に入ります。

まず、議長選出となっておりますが、本日
出席の高校生議員の中から、議長役3名をあ
らかじめ選出しております。

小林高等学校 松田凜音 議長

小林秀峰高等学校 月野愛由 議長

小林西高等学校 中原亜莉寿 議長

以上の方に交代で議長を務めていただきま
すので、よろしくお願いいたします。

それではここから議長に進行をお願いしま
す。

松田凜音議長 議長に就任しました小林高等
学校の松田凜音です。よろしくお願いいたします。

これから第1回小林市議会高校生議会を開
会します。ただいまの出席議員は17名。定
足数に達しましたので、これから直ちに本日
の会議を開きます。本日の会議は、議席に配
付してあります会次第によって進めることに
します。

日程第1、議席の指定を行います。

議席については、会議規則第4条第1項の
規定により議長において指定します。

議席の番号と氏名を事務局長に朗読させます。

岩城真伍事務局長 それでは朗読いたします。

1番 月野愛由 議員

2番 永田結愛 議員

3番 黒木琉稀 議員

4番 假屋結斗 議員

5番 指宿琉斗 議員

6番 鶴田美紘 議員

7番 大木場咲彩 議員、本日は欠席となっ
ています。

8番 長嶺陽向 議員

9番 下村陽紀 議員

10番 岡原陽生 議員

11番 西隆吾 議員

12番 大溝威於 議員、本日は欠席となっ
ています。

13番 中嶋悠乃 議員

14番 松田凜音 議員

15番 川畑健瑛 議員

16番 温水華凜 議員

17番 吉藤勇帆 議員

18番 中原亜莉寿 議員

19番 川西咲希 議員

以上であります。

松田凜音議長 ただいま朗読しましたとおり、
議席を指定します。

日程第2、会期の決定を議題とします。

第1回小林市議会高校生議会の会期は本日
1日間にしたいと思います。

これに異議はありませんか。

(「異議なし」の声あり)

松田凜音議長 異議なしと認めます。

したがって、会期は本日1日間と決定しま
した。

日程第3、市政に対する一般質問を行いま
す。

本日の質問者は、配付してあります会次第

のとおり、17名であります。

順次発言を許します。

まず、月野愛由議員の発言を許します。

月野愛由議員 皆さんこんにちは。小林秀峰高等学校2年農業科の月野愛由です。

私は、高校生活でたくさんの友達やいろんな方々と出会い、今まで話すことや、自分の気持ちを伝えたりすることが苦手だったのですが、話したり誰かに伝えたりする機会が多くなったことで、自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞くことが好きになりました。

自分以外にも誰かに伝えること、話すことが苦手な方がいると思います。私もですが、いろんな方々との交流により、話すということが楽しいと思える場があってほしいと思いました。なので、若い世代から高齢の方まで交流できるイベントがあってほしいと思い、地域の方ももちろん、小林市以外の方も気軽に來ることができお祭りを開催できたらと考えました。

このお祭りは座った状態でも楽しむことができるようにしたいため、文化会館を1日か借りて、いろんな方が來れるように1日開放して、どの時間帯から参加しても楽しむことができるイベントにしたいです。

そして、多くの方がこの祭りに來ていただけるよう、市のコミュニティバスをその日だけ乗り放題にしてほしいです。そのうち、宮交バスもJR線もお祭りを開催する際は、乗る時間を増やしてほしいです。行きたい時間に行くことができれば、このお祭りに参加してみたいと思う方がいると思います。交通の便を良くしていくことで、日常からも、宮交バスやJRを利用する方が増えて、バスや電車の時間も今よりもっと増やすことができると思います。

このイベントを開催するに当たって、市民の方や市以外の方からも自由に交流し、いろんな世代の方々と出会うきっかけとなつてほしいです。ぜひ市での実施を検討していただ

きたいです。ありがとうございました。

松嶺勇一議員 月野愛由議員の質問にお答えいたします。議員が高校生活を送る中で、いろんなことを経験され、成長されたことを感じる質問だと思いました。

バスや電車の時間を増やしてほしい、高校生が積極的にイベントを参画したいという質問だと理解しております。

まず、市の公共交通の取組として、6つの課から構成される公共交通会議において、コミュニティバス、福祉バス、福祉タクシーへの助成など、移動手段が必要な市民のデータ収集、分析、研究し、さらに小林市地域公共交通活性化協議会の中で、公共交通事業者、地域住民や利用者代表、県、小林警察署などと協議しております。課題は山積みであります。

月野議員が言われるイベントの日だけ乗り放題というアイデアは、車を運転しない、できない方にとって、その日だけでもという切実な願いだと思います。議会でもその可能性について議論してみたいと思います。

また、増便について、日常生活の中でもっと多くの方が利用していただければ、事業者の増便も検討していただけるのではないかと思います。

次に、幅広い世代の方が、参加できるイベントの開催について、月野議員が提案されているイベントの実現性を考えると、例えば文化会館の大ホールでは、1,000人を超える企画となり、スタッフが相当数必要だと思われます。

内容も参加者のニーズに合わせて多岐に及ぶと思われ、経済効果、費用対効果、継続性、平等性も考慮した市民が納得されるものが期待されます。市での実施を検討とのことで、予算や開催時期も大きく関わってきます。以前、絆を結ぶ物語実行委員会が取り組んだ、ふるなびクラウドファンディングでイベントの開催した実績もありますので、月野議員の

思いを後輩や次世代につなぐ活動に期待して答弁を終わります。

月野愛由議員 緊張していて、うまく話せないところがありましたが、よい経験になりました。なかなかこの案の実施は難しいかもしれないけど、いつかこの案が実施できる 때가きたらいいなと思いました。ありがとうございました。

松田凜音議長 以上で、月野愛由議員の一般質問を終わります。

次に、永田結愛議員の発言を許します。

永田結愛議員 皆さんこんにちは。小林秀峰高等学校の情報ソリューション科の永田結愛です。今日は小林市立病院の問題についてお話しします。

私は高原町に住んでいます。ふだんあまり風邪を引くことはないのですが、病気やけがになって、病院に行ったときに、診察を断られることが結構あり、病院に行くことをやめてしまうことがあります。この改善ができればいいなと思って、今日は発表します。

小林市立病院は平成21年3月から小林市立病院改善プランを改定し、必要に応じて改定しながら経営改革を行ってきました。

そして、西諸医師会や行政機関と連携し、入院や検査に特化した診療を行いながら感染予防や災害時の医療を提供していました。

しかし、近年の人材不足やコロナウイルス感染症の影響により、経営強化プランはペースダウンして、現在、病院の病棟の数は減りかかりつけ医ではないと診察を断られたり、必要なときにすぐ行くことができません。この課題解決はとても困難であり、すぐに取りかかることはできないと思っています。でも、少しでも改善できて安心して暮らしやすい場所になってほしいなと思っています。ぜひ市での実施を検討してもらいたいです。

有木将吾議員 永田結愛議員の御質問にお答えします。

小林市立病院は、西諸医療圏の地域医療支

援病院、中核病院としての役割を担っています。医療資源、人材が少ない西諸で、地域医療を維持するためには、それぞれの医療機関が役割を分担しながら、お互いに連携して、医療を提供することが重要です。入院患者数の減少は、御指摘のとおりであり、対策の必要性は認識しております。

そのような状況の中、医療の質向上、医療ニーズに対応すべく、市立病院では、利用していた患者さん宅の訪問看護や、地域包括ケア病棟の開設などを行っています。

また、医療人材の不足は大きな課題です。県や大学への医師確保の相談、看護師等の医療人材の確保、育成についても取り組んでいるところです。

かかりつけ医については、国が、かかりつけ医の機能強化を図っています。背景には、高齢化社会を見据えた医療と介護の連携があります。高齢者は疾患をお持ちの方が多く、かかりつけ医の先生は御本人の身体のこと、よく御存じです。専門の先生の紹介も容易になるなど、高齢者がかかりつけ医を持ち、顔の見える関係をつくることは大切です。

ただ、高齢者に重きを置いた施策だけでは、地域住民の安心安全は得られないと考えております。御指摘のとおりです。

若い方も平等に医療を受ける権利があります。引き続き住民の方が納得できる取組を研究していきたいと思っています。

私からは以上です。

永田結愛議員 今日は、たくさん緊張してしまっ、うまく伝えられないことはありましたが、この課題について、今もたくさんの考えを持ってくださっていて、うれしかったです。これからもっと改善してって、みんなが過ごしやすい、小林市になってほしいです。今日は貴重な体験をしたので、これからの学校生活などに生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

松田凜音議長 以上で、永田結愛議員の一般

質問は終わります。

次に、黒木琉稀議員の発言を許します。

黒木琉稀議員 皆さんこんにちは。小林秀峰高校2年の黒木琉稀です。私は、市にごみの分別の緩和を検討してもらいたいです。

小林市のごみの排出量は、平成16年度の燃やすごみ6,110トン、燃やさないごみ1,634トン、リサイクル品1,926トンから、令和元年度の燃やすごみ1,795トン、燃やさないごみ699トン、リサイクル品3,820トンと、リサイクル品以外は減少しています。

また、1人当たり1日のごみ排出量も674グラムから380グラムに減少しています。そして、廃棄物に関する法律の改正などがあり、ごみの循環型社会へと変わっていき、市の分別方式も細くなりました。その結果、令和元年度のリサイクル率は60.5%となり、全国でもトップトップクラスの先進地となっています。

しかし、分別が細くなったことで、我々市民に負担がかかっています。例えば、障害のある人や高齢という身体的理由で分別ができない家庭や、ごみの分別が細くなり、ごみ袋にかかるお金が増えているということです。また、学校への登下校時に、道端にごみが捨てられているのを見かけたりすることがあります。

そこで、市のごみの分別の緩和により、ポイ捨て、不法投棄をする人が減り、身体的理由で分別をするのが難しい家庭でも、今よりも簡単に分別をすることができ、ごみ袋にかかっていたお金も減らすことができ、小林市のスーパーや飲食店で、その分お金を使うことで、小林市の経済が回り、小林市の活性化につながると思います。

ぜひ市でのごみの分別の緩和を検討してもらいたいです。

小川真議員 それでは、黒木琉稀議員の質問にお答えします。

議員おっしゃるように小林市では、市民一

人一人の御協力によって、ごみの減少、高いリサイクル率を達成しており、さらなるCO₂、二酸化炭素の減少、資源の再利用で環境に優しいまちづくりを実践、推進しております。

議員御質問のごみの分別が難しい、障害のある方や高齢の方で介護の認定を受けた方などには、現在、介護福祉サービスの事業所が必要に応じてお掃除やごみの分別などのサービスを提供しております。

また、ごみは毎日出るものですから、どうしてもごみ袋にお金がかかってしまう。それも現実であると認識しております。我が国の法律には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律というものがあまして、国民の責務として、極力ごみを出さない、分別すること、リサイクル品の使用など、市町村など地方公共団体が決めた施策に協力しなければならないとなっております。

おっしゃるように、分別するときに使うごみ袋には費用がかかりますが、ごみを出す側の責任として、ごみ袋の負担は法律の運用上、どうしても必要不可欠な経費であるということになります。

また、ごみ焼却炉や最終処分場の施設も耐用年数というものがあるもので、どうしても限りがあります。

しかし、ごみを分別する、リサイクルの意識を強く持つことで、耐用年数を延ばすことも可能になります。

未来の小林市を住みよいまちにするため、何とぞ御理解の上、御協力をお願いします。以上です。

黒木琉稀議員 今日はとても貴重な経験になりました。ありがとうございました。

松田凜音議長 以上で、黒木琉稀議員の一般質問を終わります。

次に、假屋結斗議員の発言を許します。

假屋結斗議員 皆さんこんにちは。小林西高等学校1年、普通科の假屋結斗です。私が質

問したいことは、小林市にもっとレジャー施設や小林市が盛り上がるようなスポットをつくるということです。

この質問を行う理由は、楽しめるようなスポットをつくり、若者を増やして、人口減少の抑制などができると考えたからです。

小林市は自然豊かで穏やかな環境が魅力ですが、若者が楽しめるレジャースポットが少ないため、小林市内で遊んだり楽しんだりする場所がありません。そのため、将来の小林市の若者の人口も減少するのではないかと考えました。小林市内で遊べない人々は仕方なく市外へと行かざるを得なくなり、それに加え、地域経済にも影響が出てくると思います。なぜなら、若者が市外へ行き、そこでお金を使うことで、市内の商業活動が停滞し、経済の活性化が難しくなるからです。また、地元に対する愛着が薄れるということもあると思いました。

そして、レジャー施設を建てるメリットとしては、市内で遊べる場所、例えばスキー場などやラウンドワンなどができると若者がにぎわい、小林市が盛り上がり、人口も増えると思います。そしてSNSなどで盛り上がっている施設を発信し、さらに多くの人々に小林市の魅力を知ってもらうことができます。市内にレジャースポットができることで、移動の時間や費用の負担が減り、手軽に遊ぶことができると思いました。

ですが、この背景には、建設をするための費用や土地利用の制約があるがあるので、実行するのは難しいのが現状です。何事も新しく何かを始めるときには、金銭面の負担が必要です。資金繰りができないから、何も動かないとなれば、人口減少や小林市が衰退するばかりです。

解決策を検討し、ぜひ実行してもらいたいです。

押領司剛議員 假屋結斗議員の御質問にお答えします。

本市では、企業誘致条例の改正を進め、県内外からの企業誘致を積極的に推進していますが、IT企業の進出が中心であり、若者が楽しめる商業施設やアミューズメント施設の誘致は課題です。立地条件の緩和や補助金制度の整備を通じ、若者向け施設の誘致の可能性について、議会で議論していきたいと思っています。

また、イオン宮崎で毎年開催されている須木フェアのように、地元特産品を活用したイベントを参考にし、地域の魅力を発信する取組や、高校生が主体となって市民の意見を集める活動も、地域全体で施設の実現を目指すための有効な方法と考えています。これらの取組により、小林市が若者にとって魅力的なまちになるよう全力を尽くしていきます。

假屋結斗議員 とても緊張して詰まってしまうことがありましたが、とてもよい経験になったので、今後の生活に生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

松田凜音議長 以上で、假屋結斗議員の一般質問は終わります。

次に、指宿琉斗議員の発言を許します。

指宿琉斗議員 皆さんこんにちは。私は小林秀峰高校2年の指宿琉斗です。JR通学の定期券代の補助について、一般質問を行います。

皆さん、私はふだん、えびの市の京町温泉駅というところから小林駅まで、通学のためにJR吉都線を利用しています。では、私の1か月分の定期券代は幾らだと思いますか。正解は1か月に8,300円です。1か月8,300円、1年間だと9万9,600円、高校生活3年間では29万8,800円、約30万円もかかります。このように、現在、定期券の料金が高額で家計に大きな負担をかけている状況です。

多くの学生が通学のために利用しているものでもあります。そのため、市として、JR線の定期券料金に対する補助を提供していただけないでしょうか。

JR線は私たちの生活に欠かせない交通手

段であり、多くの学生が毎日利用しています。しかし、通学にかかる交通費は決して少なくなく、生活費を削らざるを得ない家庭も少なくありません。特に独り親家庭や遠距離の人たちからしたら、たったもんじゃありません。

また、通学に必要な交通費を減らすことで、その分地元のお店やサービスの利用が増え、これにより地元経済が活性化したり、お金を持つ人が増えることで、税収が増え、公共サービスやインフラが改善されると思います。市として将来を担う若者たちの学びや成長を支えるために、ＪＲ線の定期券に対する補助を検討していただきたいと思います。少しでも負担を軽減し、より多くの学生が安心して学び続けられる環境を整えていただければ幸いです。ありがとうございました。

野田利典議員 指宿琉斗議員の御質問にお答えいたします。

まず、えびの市からの通学に月に8,300円、1年間で9万9,600円もかかり、3年間だと30万円近くの保護者負担があることを教えていただいて感謝いたします。小林市では、市内高等学校通学費助成事業を実施しており、市内に住所を有し、市内高等学校にバスを利用して通学する生徒の保護者に対して、年3万円を上限に補助しております。しかし、えびの市からの通学生については、把握しておりませんでした。同じ小林の高校で学ぶ学生でありながら、高額な負担であると思います。

えびの市には飯野高校がありますが、指宿議員の学ぶ学科は商業マネジメント科ということで、飯野高校にはない学科ですから、長い通学時間をかけてでも秀峰高校を選ばれたのだらうと思います。

飯野高校が生徒数の減少を食い止めるために、他市町村からの生徒募集を積極的に行っていることは私もよく知っていますが、同様に、小林秀峰高校や小林高校、小林西高校にも生徒数の減少傾向は見られ、指宿議員のよ

うに、隣の市から通学してくださる学生さんはとてもありがたい存在だと言えます。指宿議員自身も小林市の高校で学ぶことで、広い範囲での人脈も築かれながら、将来の希望に向けて日夜、励んでおられることでしょう。

議会としても、他市町村から小林市へ通学される方の数を把握するなど、現状把握に努め、安心して学べる環境について、議論をしてまいりたいと考えます。

指宿琉斗議員 今日は、貴重な体験をさせていただいて、議員の方々、そしていろんな方々、ありがとうございます。とても緊張してうまく話せなかったんですけど、やっぱり議員の人たちは、すごい堂々と、はきはきして分かりやすく答えていて、やっぱり議員さんはすごいなあと改めて思いました。私も商業マネジメント科でたくさんプレゼンだったり発表する機会があるので、議員さんたちを見習って、堂々と、はきはきと言えるように心がけたいと思います。今日はありがとうございました。

松田凜音議長 以上で、指宿琉斗議員の一般質問は終わります。

次に、鶴田美紘議員の発言を許します。

鶴田美紘議員 皆さんこんにちは。小林高校普通科2年の鶴田美紘です。私はミラソウというSDGsに基づいて、自分の興味のある分野を研究するという学校の探究活動の中で、空き家を勉強スペースに活用することはできるのかというテーマで研究を進めてきました。しかし、高校生の私たちにとって、名義や資金の関係など、手をつけることができない課題がたくさんあり、空き家を勉強スペースにすることは実現できませんでした。

現在の小林市の勉強スペースはテナムやテノッセ、小林駅2階スペースの3か所しかなく、友達と一緒に勉強するということに、勉強スペースがなく、勉強することができないということがあります。

そこで、年々増え続けている空き家を勉強スペースに活用することで、友達と交流を図りながら勉強ができ、勉強の理解度を深めて学習効果を向上することができると思います。新しく建物を建て、勉強スペースをつくるとなると、多くの費用が必要となります。それに比べて、空き家を勉強スペースにすることは、少しのリフォーム費用で済むため、市の財政負担も軽減できると思います。

さらに、高齢者の方の家を活用するアイデアもあります。高齢者の家で勉強することで、楽しい雰囲気の中で学習できるだけでなく、高齢者の地域活動への参加促進にもつながると思います。

ぜひ小林でこのアイデアの実現を検討してもらいたいです。

永野雅己議員 鶴田美紘議員の御質問にお答えします。

空き家活用について具体的な御提案を頂きありがとうございます。市議会では、近年増加する空き家問題を重要な課題と認識し、その有効活用について積極的に議論を進めております。また御提案頂いた、空き家を勉強スペースとして活用するアイデアは3つの意義があると思います。

1、学習環境の充実において、勉強スペースが不足する中で、空き家を活用することで、学生が交流しながら学べる環境が提供可能だということ。

2、費用対効果について、新しく建てるより費用が抑えられ、市の負担軽減にもつながるということ。

3、地域活性化において、高齢者の家や空き家を活用することで、世代間交流や地域の活動の活性化にもつながり、地域社会に新たな価値を生むことが期待できます。

一方で、次のような課題も伴います。空き家の所有者との合意形成や契約の手続、安全面の確保と維持管理費用、活用財源の確保などがあります。

これらの課題を踏まえ、市議会としても、空き家バンク制度の活用や他自治体の先行事例を参考にし、議員間でも十分協議したいと考えます。

また、勉強スペースとしての活用については、地域、学校関係団体との連携を強化し、実現可能な方法を模索してまいります。

引き続き、市民の皆様からの御意見やアイデアを大切にし、空き家活用を通じた地域の課題解決に取り組んでまいります。以上です。

鶴田美紘議員 今日、高校生議会に参加できたことはとてもいい経験となりました。私のアイデアが小林市で少しでも実現していけたらいいなと思います。

今日の経験は、今後役に立つと思うので、これからの生活に生かしていきたいです。ありがとうございました。

松田凜音議長 以上で、鶴田美紘議員の一般質問は終わります。

ここで10分程度休憩します。

午後2時10分 休憩

～議長交代～

午後2時20分 再開

月野愛由議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

ここからは、私、小林秀峰高等学校の月野愛由が議長を務めます。よろしくお願いします。

次に、中原亜莉寿議員の発言を許します。

中原亜莉寿議員 皆さんこんにちは。小林西高等学校1年普通科の中原亜莉寿です。小林市発祥の何か、お店やスポットなどを建設することについて質問します。

私は昨年の4月に沖縄から来ました。小林西に行く決めてから小林市のことを知りました。また、ハッシンコバヤシ高校生記者クラブというSNSを使って小林市の魅力を発信する活動に取り組んでいます。

その中で、私は小林市のことを調べながら宣伝していくうちに、小林市のすばらしいことがたくさんあることに気づきました。私のような宮崎県外の人たちからすれば、小林市のごことは来てみないと小林の魅力を知る機会がないと思います。

そこで私は「宮崎県といえば小林市の〇〇だよな」となるように、小林市魅力を引き出したいと考えました。例えば、沖縄県と聞かれれば、美ら海水族館や那覇の国際通りなどが出てくると思いますが、宮崎県と聞かれると、マンゴーや宮崎牛などの特産品は出てきますが、これらの特産品や自然を生かした観光スポットはぱっと浮かびません。

小林市には生駒高原や三之宮峡などの隠れた観光スポットがたくさんあります。それらをリニューアルしてみたり、新たに小林市森林などを生かしてテーマパークや観光スポットなどを建設すると、小林市についてより多くの人々が興味を持つようになり、観光客も増え、より活発に小林市の発展につながると思います。

福井県池田町の冒険の森や鹿児島県のフォレストアドベンチャーなどもその一つだと思います。自然を生かしたテーマパーク、水、空気のおいしい小林市、星のきれいな小林市を生かした幅広い年齢層にマッチするテーマパークなどを、ぜひ市で実施検討してください。

大迫みどり議員 中原亜莉寿議員の質問にお答えをいたします。

本市には、野尻湖畔に位置する総合レジャーランドのじりこびあやひなもりオートキャンプ場、そして星空の美しいまち日本一に5度選ばれた環境を生かした観光資源があります。

のじりこびあでは、大小2つのウォータースライダーが市内外のファミリー層に人気で、現在、大型コンビネーション遊具のリニューアル工事も進められています。

こうした観光資源をさらに発展させるため、地元特産品を活用したカフェや、体験型施設の設置についてなど、今後、議会でも議論を重ねてまいりたいと考えます。

例えば、栗やユズを使ったスイーツが楽しめるカフェや、伝統工芸品の製作体験を提供するワークショップの開催などが考えられます。

また、SUP、カヤックを活用したアウトドア体験や、小野湖でのプライベート空間づくりなど、地域特有の観光コンテンツを拡充することもあわせて議論していきます。

さらにはハッシンコバヤシ記者クラブでの高校生の皆さんからのアイデアを生かして、地域全体で観光スポットの創出に取り組むことが重要と考えます。新しいテーマパークや観光スポットなどの建設は、今のところ検討はされていませんが、現在の観光資源を生かしながら、小林市ならではの観光スポットを充実させ、地域活性化につなげてまいります。以上です。

中原亜莉寿議員 今日はとても緊張しましたが、良い経験ができました。いま小林市にあるテーマパークなどがよりすばらしい、楽しいテーマパークになることを楽しみにしています。ありがとうございました。

月野愛由議長 以上で、中原亜莉寿議員の一般質問は終わります。

次に、長嶺陽向議員の発言を許します。

長嶺陽向議員 こんにちは。小林秀峰高等学校福祉科2年の長嶺陽向です。私が提案するのは、自転車を通る専用の道をつくってみたいかどうかという提案です。

私がこの提案をした理由は、専用の道をつくることにより、歩行者も自転車に乗っている人も安心して利用できる小林市にしていきたいと思ったからです。自分の経験になりますが、友達と道を歩いていると、自転車が来てどちらによればよいか迷ってしまったり、逆に自転車に乗っていた際、歩いている人に

より道が塞がっており、不便に感じたことがあります。自転車は車道を走るのが原則ですが、接触してしまう可能性があり、怖いと感じてしまい、歩道の車道側を走ってしまうというのが現状です。

京都府では、人と自転車との接触事故の過半数が歩道で発生しているため、自転車の歩道通行禁止を試験的に行ったそうです。

宮崎県の高校生自転車事故はワースト3位ととても高く、歩道通行禁止になってもおかしくないのかもしれませんが、しかし、自転車の専用の道があれば、歩行者、車との接触の危険性もなく、安全に走行することができそうです。また、専用の道をつくることにより、交通ルールの意識づけにも効果があると考えました。自転車の並進などをしてしまうと、専用の道から外れてしまうような道幅にし、さらに効果が出ると考えました。

まずは、市道の道に設置を行い、中学生、高校生を中心にアンケートを実施し、さらに設置する場所を広げてほしいと考えています。市道の中でも、高校、中学校近くに設置をするとさらに効果が見えるのではないかと考えました。ぜひ設置の検討をお願いします。以上です。

吉藤洋子議員 長嶺陽向議員の質問にお答えします。

長嶺議員の質問は、中高生の通学状況における問題点や現状をしっかりととらえられており、考えさせられる問題でございました。実際、自転車と人の接触事故は、令和5年度に全国で7万2,339件発生しており、前年度より2,354件増加しております。

基本的に自転車の歩道通行は認められておらず、長嶺議員の御指摘どおり、今後、県内においても、自転車の歩道通行禁止になる可能性も考えられます。

様々なケースがありますが、おおむね自転車事故で追突の場合、自転車100対歩行者ゼロ、正面衝突では90対10の過失割合となっ

ており、この場合、加害者である自転車側はこの過失割合に応じた賠償金を支払わなくてはなりません。ただし、民法では12歳未満の加害者は責任能力を備えていないとして、保護者が責任を負う可能性があります。いずれにしても、自転車といえども、事故が起きた場合は大きな責任が生じるということです。

さて、御質問の件ですが、小林市内には、既に市民体育館前の市道など、一部でありますが、自転車の通行位置と方向を明示した箇所があります。自転車専用道として明記してあれば、車も注意して走行をし、接触の危険性もなくなるものと思いますが、既存の道路を拡幅して、自転車専用道をつくるには莫大な費用と時間がかかります。特に長嶺議員が通学で利用される、国道268号などは、管理者である宮崎県土木事務所と協議を行う必要もあります。

このことは、1日も早く解決すべき事項だと思いますので、時間はかかると思いますが、御提案頂いた内容も参考にしながら、かけがえない命を守るためにも要望をつないでまいりたいと思っております。以上で答弁を終わります。

長嶺陽向議員 答弁していただき、ありがとうございます。

問題点をしっかりと考えていただいて、とてもうれしいです。今日の経験はとてもいい経験になりました。ありがとうございました。

月野愛由議長 以上で、長嶺陽向議員の一般質問は終わります。

次に、下村陽紀議員の発言を許します。

下村陽紀議員 皆さんこんにちは。小林高等学校2年の下村陽紀です。私は昨年11月に開催された秋まつりアンケート調査について質問いたします。

私自身も、同じ会場の交通整理ボランティアに参加していました。そのときにアンケートのQRコードが張られたベストを着た友達

がいましたが、QRコードを読み込んでいる人はほとんどおらず、友達に聞いてみると「4人ほどしか答えていない」と言っていました。アンケートの内容は、フェスティバル部門でどのグループがよかったかなどを投票するというものでした。

もしかすると、自分が思っているよりも多く投票されているかもしれませんが、そうでなかった場合、結果を出す際に決めにくいと思います。多くの人にアンケートを答えてもらうには、ベストを着用した人が歩き回るだけでなく、看板などを設置したり、アンケートに答えてくれた人は抽選会に参加できるなどの特典的なものがあると、アンケートをする人数が増えると思います。

また、アンケートの最後に、今回のこばやし秋まつり2024の感想・要望について記入するところがありましたが、記入しなくても送信できるので、意見・要望が集まりにくいと思いました。要望がないとなると、今年はまつりで悪い場面や不安に思う場面がなかったと思うこともできますが、秋まつりに参加した人の声が集まらなかった場合、次回のまつりでどのような面を改善したらよいか、継続していったらよいかなど、考える際の参考になるものが少ないと思います。感想や要望を記入することを必須条件にし、感想や要望をもっと集めたらよいと思います。以上で質問を終わります。

高野良文議員 私も陽紀くん同様緊張しております。よろしくお願いいたします。

下村陽紀議員の御質問にお答えいたします。内容は、昨年11月23日に開催されましたこばやし秋まつり2024に関する質問です。下村議員も、当日はステージ周辺のボランティアに参加されておられて、そのとき目にしたことに疑問を持たれての質問でございます。

秋まつりのプログラムで初企画の「こばやし秋まつり大賞2024フェスティバル部門投票アンケート（投票は1人1回まで）」は、2

3の団体が、限られた時間の中で踊りをPRするものでありました。関係者10人がQRコードを体に張って歩き回り、観客がスマートフォンで投票するという方式と、紙ベースで投票用紙を準備しておられたとのことでございます。アンケートの集計の結果は、172件だったそうです。なお、紙ベースの投票は1桁だったそうです。また、まつり来場者に対してアンケートには、いろんな設問をされておられました。例えば「どこから来ましたか」「どのような目的で来ましたか」「どこでこのまつりを知りましたか」など、正確にデータがとられていました。

下村議員が1番心配されていた、感想や要望を記入するところを必須にした方がいいという御意見につきましては、アンケートの必須項目ではありませんでしたが、①楽しかった、②ごみ捨て場が多くてよかった、③テナム2階のゲームが楽しかった、④駐車場が少ない、⑤能登町の物産を楽しみにしているなどの感想や要望等、多くの意見があったことが確認できました。

下村議員がおっしゃるQRコードの看板などのアイデアは、次のイベントに生かせるのではないかと考えております。以上です。

下村陽紀議員 アンケートの内容で自分が分かっていなかった部分も今知れて、また自分が出した意見も、次のまつりに活用してくれるとのこと、うれしいと思います。

今回の体験はとても貴重なもので、今後の学校生活やふだんの生活などにも生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

月野愛由議長 以上で、下村陽紀議員の一般質問は終わります。

次に、岡原陽生議員の発言を許します。

岡原陽生議員 皆さんこんにちは。小林西高校1年普通科の岡原陽生です。私が市に改善してほしいことは、緑の保護です。

なぜかという、私は永久津の岡原地区という、山々に囲まれた場所に生まれ育ちまし

た。最近では山々が昔に比べるとかなり早いスピードで伐採が進んでいるからです。それにより小林市の緑が減り、小林市の自慢である自然が失われていることに、近所の方々から不安と悲しみの声がよく聞こえてきます。調べてみると、木々の伐採が進んでいる背景には、樹齢がぎりぎり逼迫しており、商品としての価値が下がってしまうことがありました。

また、伐採した後に新しい苗を植えることで、緑が保たれていましたが、最近では、植林をする人手が足りていないことも、理由の一つとして挙げられています。

これらのことを踏まえて、私は想像していたよりも奥の深い問題であると感じました。緑の減少は、今世界的に問題となっている地球温暖化とも深く関わっていることから、早めの対処が必要です。多様な種類の生物が共存し、生態系豊かな小林市であってほしいと願っています。対策としては、植林をする人手を増やすためにはどうしたらよいかや、なぜ伐採する必要があるのか市民に知らせることなどが必要ではないかと考えました。

小林市としても、市の自慢である自然を守ってほしいです。また、自然を活用したアスレチックなどの観光スポットなどにもつなげていくことも検討していただきたいと思っています。

金松勲議員 岡原議員の御質問にお答えいたします。

小林市では、総面積の約70%を森林が占め、地球温暖化防止や、水源涵養国土保全に重要な役割を果たしています。

しかし、木材価格の高騰により、森林の伐採が急激に進んでいる一方で、林業従事者は減少傾向にあることから、伐採跡地の放置や再造林の遅れが課題です。このような状況は、生態系の崩壊や土砂災害のリスク増加につながる可能性があります。

このようなことから、小林市議会では、間

伐などの森林整備を着実に実施していくための財源として整備された森林環境譲与税について、森林整備のより一層の推進のため、国に対し、譲与基準の見直しを求める意見書を令和5年度に提出し、本年度交付額の増加を得ることができました。

また、宮崎県においても、再造林を推進するため、令和6年度に再造林推進条例が策定されており、再造林に対する意識は高まっております。

引き続き、環境保全と地域経済の両立を目指し、持続可能な林業の実現を目指します。岡原議員の質問に沿うよう努力いたします。以上で答弁終わります。

岡原陽生議員 今日のような、ふだん政治をされている議員の方々と、直接意見を交わす機会はすごく貴重で、今回の高校生議会に参加できたことがすごくうれしいです。本日は本当にありがとうございました。

月野愛由議長 以上で、岡原陽生議員の一般質問は終わります。

次に、西隆吾議員の発言を許します。

西隆吾議員 皆さんこんにちは。小林高校2年の西隆吾です。私は、公共交通機関の利用者を増やすために、さらに多様な援助をすべきだと考えます。そう考えた理由は、小林市と都心部での公共交通機関の発達においての大きな差が、小林市から出た若者が再度小林市に移住する上で壁になりやすいのではないかと考えたからです。小林市のウェブサイトには公開されている小林市公共交通計画によると、公共交通機関の利用されている割合は低く、自動車や自転車、バイクなどが多く利用されています。しかしそれは、公共交通機関の発達が遅れているため、利用するメリットが少ないことにより、ほかの交通手段をとらざるを得ないからだと考えました。

また、小林市には、シニアバスなど、高齢者に対する援助は目に見える場所にありますが、若者などの世代に対して、そのようなも

のではないように感じました。

そこで、私は、全ての世代に対しての援助が必要だと考えました。ここで、公共交通機関を利用しやすくするために、列車を新しくする、本数を増やすなどの対策が挙げられますが、私はこれは非現実的だと考えました。と言いますのも、小林高校では12月に生徒の探究活動発表がありました。そこで吉都線について取り組んでいた生徒によれば、吉都線の方に話を聞いたところ「資金の問題から実行するのは難しい」とのことでした。このことから私は、利便性向上のための資金を確保するために、まず利用者の獲得を優先すべきだと考えました。

そのための対策として2つ挙げさせていただきます。

一つ目は、一定期間の公共交通機関の利用状況に応じて地域の特産品を贈呈する、または地元企業で使える地域復興券などを配布するとよいと考えます。こうすることで、公共交通機関を利用するメリットが生まれ、また、地産地消の促進や物価高という今苦しい状況にある家庭の援助にもつながります。例としては、スタンプカードなどが適すると思います。スタンプの数は1回の乗車時の金額によって決まります。また、ブロンズ、シルバー、ゴールドのように階級をつけ、スタンプを集め切ると次のグレードに行けます。たまったカードは特産品と交換できたり、地域復興券として利用できたりします。

また、グレードが上がるにつれて、特産品の価格や券の金額も上がるようにする。こうすることで継続して利用しようとする意識が生まれるはずです。

二つ目は、生駒高原コスモスまつりやこばやし秋まつり等の開催に合わせて、開催地までのバス、電車の切符を販売するとよいと思います。加えて、切符を持っていると景品と交換できる抽選会に参加できるなどの特典を盛り込むことにより、多くの人が購入すると

思います。

さらにこれは、交通手段を公共交通機関に集中させることにつながり、渋滞対策につながり、さらに多くの人にイベントを楽しんでもらうことができます。公共交通機関の利用者を増やすための取組として、ぜひ検討をお願いします。

堀研二郎議員 西隆吾議員の質問にお答えします。まず議員が言われるとおり、小林市の公共交通、こちら都市部に比べると、利便性は劣ります。列車を更新したり、運行便の数を増やすという難しさもあるかと思います。その状況の中で、利用者を増やすために何ができるかという、新たな視点を持つことが重要なことだと私自身も共感するところがあります。

西議員の提案を受けて、公共交通を継続的に利用することで、メリットをつくると。そういうところは非常に大切だと私も感じました。スタンプとかの話が出ましたけれども、私はポイントを付与するとか、そういう支援策ですね。現在、小林市が健幸ポイントという事業に取り組まれています。歩いた歩数に基づいてポイントがついて、それが景品等で還元されるとか、そういう取組をしています。ICTを活用される学生の皆さんへの迅速な支援にもつながる可能性があると感じますし、将来性を感じます。また地域事業者、例えば、生駒エリアでは、現在、生駒高原活性化プロジェクトという団体が立ち上がりました。そういった地元事業者とともに、生駒高原コスモスまつりなどのイベント、そういったところと連携しながら企画を実施することで、公共交通機関の利用や促進、地域の活性につながることも考えられると思います。小林市の地域公共交通計画にあります通り、小林市地域公共交通活性化会議を定期的に開催し、PDCAサイクルにより事業の改善、新たな取組、統合や配置廃止について検討されています。公共交通機関利用者の中でも、

学生が多く、今回の西議員の御意見をはじめ、その声を市議会としても担当部局に伝え、利便性の向上と利用者が増える取組がなされるよう協議を進めてまいります。

西隆吾議員 小林市健康運動ですかね、正しい名称が分からないんですけど、そういったイベント等で電子ポイント制度などがあることを教えていただき、ありがとうございました。私の提案した議題がもし実行されるとなるときには、そのような電子マネーと一つにまとめていただき、小林市に対して、何か良い利益につながったりとか、地産地消につながるようなことをしたらポイントが付与されとか、健康につながるようなことをするとポイントが付与されるといったふうに、一つ一つに分けるのではなく、小林市全体のポイントとしていただきたいと、答弁を頂いて感じました。

例えば、先ほど頂いたように健康運動するとか、あと私が言った公共交通機関を利用する、またスーパーとかで地域の特産品を買うと地産地消につながりましたということでポイントがつながったりとか、地域のどこか市役所と契約したところで飲食をするとポイントが付与する。また例えば、観光地とかに行くと、ポイントが付与されるといったことをしていくと、もっと小林市がよりよい市になるのかなと、ちょっと答弁頂いて感じましたので、ぜひこちらのほうも考慮して、議会のほうで進めていただけるとありがたいです。以上です。

月野愛由議長 以上で、西隆吾議員の一般質問は終わります。

次に、中嶋悠乃議員の発言を許します。

中嶋悠乃議員 皆さんこんにちは。小林秀峰高等学校2年の中嶋悠乃です。小林市では、地域の発展がまだ十分ではなく、多くの子供たちや若者が県外へ出ていく現状があります。この課題を解決するために、私は市内に若者を引きつける施設の誘致と地域全体の活性化

に向けた取組を提案させていただきます。

まず、現在パチンコ店に多くの資金が流れている現状を見直す必要があるのではないですか。その資金や立地を地域の発展に生かす方法を模索することが大切だと思います。

例えば、全国的に人気のカフェやゲームセンター、アミューズメント施設などを誘致すれば、市民が地元で楽しめる環境が整うのではないのでしょうか。

また、スマホや家庭用ゲーム機が普及している今、リアルな体験を提供する場をつくれば、地域に新たな魅力を生み出せると思います。これにより、休日に県外へ行く必要がなくなり、地元での消費も促進され、住民同士の交流も深まるのではないのでしょうか。

次に、地域の特産物や作物を生かしたイベントや地元ならではの体験を提供する場をつくれば、地域の魅力が発信できるのではないかと思います。

例えば、誘致したカフェで小林市産の食材を使ったメニューを提供するなどすれば、地域の特産物を生かした取組になりますよね。これにより、市外からの観光客を呼び込むだけでなく、地元住民が自分たちのまちに誇りを持てる環境が育まれるのではないかと考えます。

さらに、地元の企業や自治体が協力し、若者が「小林市で働きたい」「ここでキャリアを築きたい」と感じられる職場環境を整備すれば、若者の定着率が高まると思います。職場だけではなく、住居や子育て支援など、生活全般を支える仕組みを整えることで、さらに住みやすいまちになるのではないのでしょうか。これらの取組を通じて、小林市が若者にとって住み続けたいまちとなり、また地域外からも行きたいまちとして発展することができるのではないかと思います。地域の未来を支える取組について、ぜひ御検討頂けると幸いです。

前田隆博議員 中嶋悠乃議員の質問にお答え

します。

中嶋議員が提案された若者を引きつける施設の誘致と、地域全体の活性化に向けた取組は、人口減少問題に対処し、小林市の未来を築く上で非常に重要な視点です。

特に、先ほど假屋議員の質問に対する答弁の中にもございました、全国的に人気のあるフランチイズ店舗や総合レジャー施設の誘致は、地域経済を活性化させ、住民の満足度向上に寄与します。

また、地元産品を活用したイベントや特産品を発信する場の整備も、地域の魅力を高める効果的な手法です。それにより、若者が住み続けたいと感じるだけでなく、小林市への移住を検討する人を増やし、地域に新たな人口を呼び込むことが期待されます。

その結果、地域の活力が高まり、企業が小林市に目を向け、進出を検討するような、選ばれるまちづくりへとつながるのではないかと思います。

議会としては、市担当部局と連携しながら、調査や研究を通して、議員間で十分議論してまいります。中嶋議員の熱い思いを受け止め、若者が誇れる小林市を実現し、地域全体の持続可能な発展を目指して、尽力してまいります。中嶋議員の質問に対する答えとなったか分かりませんが、私からは以上です。

中嶋悠乃議員 今回の提案について、実現には時間や努力が必要だと思いますが、貴重な御意見を頂けて、とても感謝しています。小林市の未来について、引き続き御協力を頂けるとうれしいです。ありがとうございます。

月野愛由議長 以上で、中嶋悠乃議員の一般質問は終わります。

ここで10分程度休憩します。

午後3時05分 休憩

～議長交代～

午後3時15分 再開

中原亜莉寿議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

ここからは、私、小林西高等学校の中原亜莉寿が議長を務めます。よろしくお願いします。

次に、松田凜音議員の発言を許します。

松田凜音議員 小林高校普通科2年の松田凜音です。僕は小林市の公共交通機関についてお話したいと思います。小林市から宮崎市や都城市などの主要都市へのバスは、平日において本数が非常に少なく、特に朝や夕方の時間帯において、利用者が集中してしまうため、乗車率が高く、満席となり、座ることができないケースが多々見受けられます。

このような状況は、移動手段の選択肢を限らせることによって、市民はもちろんのこと観光客の利便性を損ない、さらには宮崎市や都城市といった、近隣都市との交流の活発化や、観光地へのアクセスの向上を妨げ、地域経済や関係人口の活性化にも悪影響を与える恐れがあるため、小林市から都城市、宮崎市方面へのバスの本数の増加を、休日ダイヤにおいて特に検討し、特に利用者が集中する朝及び夕方の時間帯における増便を優先的に実施すること、加えて、小林市の住民や観光客からの意見を収集するためにアンケート調査などの利用者ニーズの調査を実施し、それをもとに基本的な増便計画を策定することにより、小林市から主要都市への移動がより円滑になり、市民の生活の質が向上することに加え、宮崎市や都城市への観光アクセスが改善されることで、観光客の流入が促進され、さらには、公共交通の利用を推進することで、自家用車利用を減らし、環境負荷の軽減を図ることも可能になります。

休日の都城市や宮崎市へのバスの増便を検討してもらうことと、近くでの移動の場合は、近年1人1台スマホを持っているので、アプリでの民間のタクシーの配車などをすることを提案します。

貴嶋憲太郎議員 それでは、松田凜音議員の質問にお答えいたします。

バス路線の増便について、確かに休日や平日の通勤通学時間帯においては利用者が集中しているのは存じ上げています。

しかしながら、本市の公共交通に対する財政負担は年々増加傾向にあり、特に路線バス、コミュニティバス、福祉バスについては、利用者から増便のニーズがありますが、全体的な利用者数が少なく、運行費補助や委託料等の運行経費を増額することは難しい状況にあります。

また、利用者が少ない路線も存在し、今後、これ以上運行本数を減らさないためには、収益性を維持するための改善が必要であります。そのため、市では、地域公共交通の持続可能性についての市民アンケートを行っております。その市民アンケート結果から、市民の大多数が、買物や通院等の外出行動に、自家用車を日常利用、また、高齢者も約8割は自家用車を使って暮らす習慣が定着し、自家用車での移動が生活になくてはならない。そして、保護者の送迎に依存せざるを得ない中高生の存在、という結果でした。

また、昨年度末まで、デマンドタクシーの実証実験を行いました。利用者が少なく、これからの地域公共交通の在り方についての課題が浮き彫りになったところです。

市では、小林地域公共交通計画を策定し、取組を進めていますが、地域公共交通の持続性を高めるためには、行政と交通事業者だけでなく、地域の人に広く利用していただくことが必要となっています。

以上のことから、市民の皆さんの御理解と御協力をお願いするとともに、市外へ行くだけでなく、交通機関を使って市外から小林市へ来てもらい、楽しんでもらうための効率的な仕掛けについても一緒に考えていけたらと思います。以上であります。

松田凜音議員 今日は、何か月も前から準備

してきて、このような場を設けていただき、とてもうれしく思います。僕は議長という、とても特別な役割も担わせてもらえて、とてもいい経験になったと思います。今日は本当にありがとうございました。

中原亜莉寿議長 以上で、松田凜音議員の一般質問は終わります。

次に、川畑健瑛議員の発言を許します。

川畑健瑛議員 私は小林西高等学校調理科1年の川畑健瑛です。私はスポーツ合宿誘致の件でお尋ねします。

現在の小林市の合宿誘致の対策を調べてみると、助成金ではなく天然水やお肉、季節の果物を贈呈していることが分かりました。しかし、近隣の制度を見てみると、条件等がありますが、えびの市は1人1泊1,000円、都城市は1泊2,000円の助成金があります。私の中学校のときの経験ですが、合宿費用のほとんどを保護者が出していましたし、最近の宿泊施設の料金はかなり高騰しているの、少しでも負担が軽くなるとうれしいという声を聞いていました。

また、本校のバレー部の先生から、当初、小林市で合宿をする予定でしたが、助成金の関係で、相手から「えびの市か都城市でしてもらいたい」ということを言われ、えびの市で行ったようです。えびの市では、えびの市に宿泊をすると、利用する宿泊施設まで減免されるようなので、かなり負担が減るということを知りました。

このようなことが今後も増えていくと、小林市に入る予定のお金が入らず、近隣へ流れ、さらに財源がなくなり、厳しい状況が続くと思います。小林市には宿泊施設も少ないので、このような制度をつくることで、小林市に来る人が増え、財源も増えれば、宿泊施設の活性化や地域の飲食店、弁当屋さんなども影響があると思います。この小さなまちでも、たくさんの強い部活動があり、スポーツも盛んなので、助成金制度があれば、今以上に間違

いなく人が増えてくると思います。特産物でも、もちろん喜ばれるとは思いますが、まず来てくれる人を増やし、合宿などの受入れを増やすことで保護者がたくさん訪れ、その方々がお土産として特産物を購入してくれるという、良い循環ができるのではないのでしょうか。

以上のことから、ぜひ小林市にも助成金制度を導入していただき、小林市の活性化につなげてほしいです。ぜひ検討をお願いします。**原勝信議員** それでは、川畑健瑛議員の御質問にお答えをいたします。

本市はスポーツのまちとして、駅伝や男子新体操女子ソフトボール、バスケットボールなど、全国大会で数多くの実績を誇っています。

中でも男子新体操では、全国制覇、女子ソフトボールでは全国準優勝の経験がございます。

小林市では、市民が全国大会に出場する際の補助制度、また、宿泊日数に応じた地場産品等の差し入れ、金額としましては2万円から10万円以内、及び移動手段の貸切バスに要した費用の補助、補助額2分の1以内、限度額5万円は行っているところでございますが、市外からスポーツ団体等を受け入れるための宿泊費補助制度は未整備でございます。えびの市1泊1,000円、都城市1泊2,000円との差が課題でございます。

川畑議員が提案される宿泊費補助制度の導入につきましては、財源確保のためのクラウドファンディング活用等、他市の取組などを調査研究したいと考えます。

また、地元特産品を活用したおもてなしイベントや選手との交流を通じ、地域全体でスポーツを支える仕組みの構築につきましても議会で議論してまいりたいと思います。2年後に開催となります国スポ障スポに向けた施設改修も含め、小林市がスポーツ拠点として選ばれるまちを目指してまいりたいと思いま

す。以上でございます。

川畑健瑛議員 原議員、分かりやすい答弁ありがとうございます。今回緊張したんですが、自分の考えを伝えられたかなと思います。

このような場を設けていただき、本日は本当にありがとうございます。終わります。

中原亜莉寿議長 以上で、川畑健瑛議員の一般質問は終わります。

次に、温水華凜議員の発言を許します。

温水華凜議員 皆さんこんにちは。小林高校2年の温水華凜です。私が小林市に提案したいことは、産婦人科の病院の設置についてです。

現在の小林市で妊婦健診等を行うことができる病院は、小林市立病院のみとなっています。小林市立病院では、妊婦健診を行っていますが、分娩は行えず、また、週1回のみと健診も限られています。

この現状を見て、私は、妊婦の方々は、病院を利用することが難しいと考えられているのではないかと思います。実際に小林市では難しいからという理由で、えびの市や都城市といった小林市以外の地域で健診や分娩等を行ったという方々がいらっしゃいます。また、産婦人科が近くにないという現状は、地域の人口減少や少子化が進むきっかけになってしまうのではないかと考えました。

分娩は命にも関わるものですので、近くに産婦人科があっただけでも何かあったときに、短時間で対応ができます。妊婦の方々だけではなく、その御家族の方も安心できると思います。また、よりよい生活を送ることができると思います。

以上のことから、利便性や人口減少、少子化のリスクを避けるという二つの点を考え、産婦人科の病院の設置を提案します。産婦人科の設置をすることで、小林市はよりよい場所へと変わっていくのではないのでしょうか。ぜひ実施を検討していただきたいと思います。以上で終わります。

鎌田豊数議員 温水華凜議員の御質問にお答えします。

小林市立病院の産婦人科は、令和4年1月から分娩を休止し、西諸地域から出産できる医療機関がなくなりました。理由は、分娩時のあらゆるリスクに対して、1人の産婦人科医での対応には限界があると判断したからです。令和5年9月議会での市長答弁では「安心安全の出産体制のためには、産婦人科の常勤医師が複数名、加えて、常勤の麻酔科医師と小児科医師が必要で、その確保は非常に難しい状況にある。分娩再開の見通しは立てられない状況にない。現在実施している妊産婦検診や産前産後ケア事業を継続し、充実させることが重要。あわせて、大学や県などの連携をさらに強化して、粘り強く医師確保に努めていく必要がある。」という答弁でした。

市では、妊婦健診を適切に受診していただくため、交通費補助や出産サポート119の登録で、緊急時に妊産婦をスムーズに救急車で搬送するシステムがございます。

私たちも今後、妊産婦へのさらなる支援と西諸地域で出産できる体制づくりに、議員間でも十分に議論して、市や県、国に対して要望活動を強化してまいります。以上です。

温水華凜議員 答弁ありがとうございます。この議会で経験したことは、今後の学校生活、また将来にとっても役立つと思います。ありがとうございます。

中原亜莉寿議長 以上で、温水華凜議員の一般質問は終わります。

次に、吉藤勇帆議員の発言を許します。

吉藤勇帆議員 皆さんこんにちは。小林高校1年の吉藤勇帆です。私は小林市のふるさと納税の返礼品について提案します。

小林市では、ふるさと納税の返礼品として多くのものが提供されています。ふるさと納税のサイトによると、2024年12月9日から2025年1月8日の1か月間の中で最も人気であったのが、宮崎牛の赤身ステーキお試しフ

ァミリーパックで、続いて、宮崎牛の切り落としステーキになっていました。ランキングを見てみると、上位70%が肉類になっていました。また、水や酒、キャビアも人気があることが分かりました。その反面、観光や体験ツアー、宿泊チケットは全く人気がないということが分かりました。その理由は、魅力があっても寄附金額が高く、一般の人は高額寄附をちゅうちょしてしまうのではないかと考えました。

ここで、新潟県のふるさと納税の取組事例を紹介したいと思います。1万円の寄附金額で新潟県ふるなびトラベルポイントがもらえるものです。このポイントは無期限に使えて、いつでも好きなときに旅行に行けるところが、魅力です。小林市にも人のよさや自然を感じることのできる観光スポットがたくさんあります。新潟県の事例にならい、小林市でも旅行ポイントをふるさと納税の返礼品にして、宿泊や体験ツアーチケットを含めることで、実際に小林市を訪れて興味を持ってくれる人が増え、結果、人口の増加にもつながるのではないのでしょうか。ぜひ御検討をお願いします。以上です。

舞田重治議員 小林市のふるさと納税について吉藤議員の御質問にお答えをいたします。

ふるさと納税が伸び悩む中、大変貴重な提案を頂きました。全国的に見ても、トラベルポイントが使える提携店は増え、利用者も増加傾向にあります。今後、地域活性化に大きく貢献できるサービスと考えます。

小林市は緑豊かな自然と、豊富で清き水に恵まれ、多種多様な農業を展開し、日本の食料基地として、市町村別農業生産額においても、常に全国25位から30位に位置づけられております。

今、世界では、温暖化や砂漠化による、食糧不足が懸念されております。現在、世界では約8億人の人が食料不足に見舞われております。自然、健康、食、水に関する関心が高

まりつつあります。

小林市が得意とする分野のトラベルポイントサービスは、地域活性化につながるものと考えます。小林市健幸のまちづくり拠点施設へのスポーツ関係団体誘致を含め、観光推進司令塔となる小林まちづくり株式会社や田舎暮らし体験ツアーに取り組んでいる北きりしま田舎物語推進協議会等を巻き込んだ取組を考えるのも大変よいのではないかと考えます。

また、令和9年には、国スポ障スポ開催予定となっております。特に須木地区では、地元の特産品やおもてなしの地域特性を生かし、歓迎ムードが地元議員や区長を中心に盛り上がりを見せております。

議会におきましても、吉藤議長を筆頭にじょじょんよかこ小林市への誘致活動、PRに機会あるごとに取り組んでまいります。以上であります。

吉藤勇帆議員 舞田議員、丁寧な答弁をありがとうございます。このような場に立ち、発言できたことは、私の人生にとって、とても貴重な体験になりました。再びこの場に立って発言できるように、日々勉学に励みたいと思います。以上です。

中原亜莉寿議長 以上で、吉藤勇帆議員の一般質問は終わります。

次に、川西咲希議員の発言を許します。

川西咲希議員 皆さんこんにちは。小林秀峰高等学校福祉科2年の川西咲希です。

全国的に、夕方から夜にかけての事件や交通事故が多発しています。様々な理由があるとは思いますが、その中でも、私は夜間に見通しが悪いためだと思っています。そのため、私は街灯を増やしてほしいと思っています。その中でも、ソーラー式LEDを設置するのはいかがでしょうか。

では、ソーラー式LEDを整備することによって、どのようなメリットがあるか、4つお話しいたします。

一つ目は、ソーラー式LED街灯は太陽光

を利用して、全自動で発電した電気バッテリー内にため、照明を照らすことができます。

二つ目は、コストの削減です。ソーラー式LED街灯にすることで、月々の電気代が削減されることです。

三つ目は、防犯力のアップです。

四つ目は、環境負荷低減で、二酸化炭素を排出せず、環境に対する負荷を大きく低減することです。

それでは、実際にソーラー式LEDを設置した福島県ではどのような効果があったかについて話していきたいと思います。福島県では、ソーラー式LED12基を設置したことにより、設置する前に比べて街路が明るくなり、防犯面が改善されるだけでなく、太陽光パネルによる発電と敷設する蓄電池により、災害時も平時と同様に利用できるため、災害時の体制が向上したと、環境省のホームページに記載されていました。

また、ある市では、ソーラー式LEDを設置したことにより見られた効果は、街灯を増やすことにより、夜間における歩行中のけがや交通事故を未然に防ぐことにつながりました。ソーラー式LED街灯を導入することにより、CO2の排出量をゼロにすることができ、エネルギーコストもゼロにすることができます。ソーラー式LEDの設置は、市民が得をするだけではなく、環境にとっても優しくなっています。全国的にソーラー式LED街灯の設置が進んでいます。

小林市でも、国道221号線を中心とした人通りの多い通りに、112基の街灯を2016年に設置したと記事で見ました。2016年以降に小林市でソーラー式LED街灯が設置されていないのはどうしてですか。

また、今後どれぐらいLED街灯を設置する計画がありますか。

最後に、安心安全なまちにするために、街灯の設置をお願いしたいです。

竹内龍一郎議員 秀峰高校2年川西咲希議員

の質問にお答えいたします。

全国的に夕方から夜間にかけて、事件や交通事故が多発している状況があり、街灯の増設をしてほしいとの要望でありました。特に街灯設置において、ソーラー式ＬＥＤが太陽光を蓄電し、全自動で電気代が削減でき、防犯力に効果を示し、さらに、二酸化炭素ＣＯ２を削減することにもつながるという検証をされており、市のゼロカーボンシティ宣言にもうたわれており、小林市でも街灯のＬＥＤ化は積極的に推進されていると感じております。

質問のありました2016年に設置されたソーラー式ＬＥＤ街灯については、商工会議所で設置されたものです。所管する危機管理課に確認したところ、市が管理する安全灯の総設置件数は、令和6年4月1日現在で2,298基、そのうち1,239基がＬＥＤ街灯となっております。ＬＥＤ化率が52.92%、ＬＥＤ街灯の1基当たりの設置費用は約5万円から6万円程度で、今後の設置計画としては、通学路を中心に、年次的に設置を進めていくということでした。

市民の安心と安全を守るためには、非常に必要な設備であります。今後においても、学生さんをはじめ、地域の皆様の要望に、より多くこたえられるよう、ＬＥＤ式街灯設置について、積極的に取り組んでまいりたいと思います。以上です。

川西咲希議員 私が思ったよりも、ソーラー式ＬＥＤ街灯の設置は進んでいるということを知りました。今後もこのような機会があったらぜひ参加したいなと感じました。本日は本当にありがとうございました。

中原亜莉寿議長 以上で、川西咲希議員の一般質問は終わります。

以上で、本日の日程は全て終了しました。

これで第1回小林市議会高校生議会は閉会します。

午後3時50分 閉会

～講評～

堀研二郎広報広聴委員長 皆様、大変お疲れさまでした。

まずは高校生の皆様に、議員の皆さんもう一度大きな拍手をお願いいたします。

最後に、小林市議会鎌田副議長から講評を頂きたいと思います。

鎌田豊数副議長 高校生の皆さん、長時間、大変に御苦労さまでした。小林市議会副議長の鎌田豊数です。

本日は小林高校6名、小林秀峰高校7名、小林西高4名の合計17名の皆さんが、本市の様々な課題について、元気に質問してくださいました。

二、三、ちょっと触れますと、公共交通機関の利便性と利用促進のことを4名の方が質問されていましたけども、その中でえびの市から小林市に通っておられる指宿さんは定期券の補助をということで、切実な問題と感じました。

あともう一つ多かったのは、魅力あるレジャー施設やスポットを設置してほしいというようなことで4名の方が質問してくださいさっておりますが、沖縄出身の中原さん「小林といえば〇〇」というスポットをつくったらどうかという提案で、若者でにぎわうようにしてほしいというような提案がございました。

もう一つですね、空き家対策として、勉強場所への活用と高齢者の方との交流にもなるように空き家を活用してはどうかという鶴田さんの質問がありました。空き家の活用とコミュニティづくりというすばらしい着眼点だと思いました。

17名の皆さん、それぞれ、いずれもすばらしい質問の内容でございました。

皆さんが高校生の目線で本市の現状をしっかりと捉え、調査や資料をもとに分析し、提案して下さったことがよく分かりました。

議長役の松田さん、月野さん、中原さんの進行も、堂々とスムーズでした。議長がいないときは、ぜひ代理をしていただきたいというふうに思いました。

私たち議員も、皆さんから新たな視点とふるさとへの思い、そして若いエネルギーを吸収し、心新たに本市の魅力と課題を見つめ直したいと思います。本当にありがとうございました。

この高校生議会は、冒頭、議長から挨拶があったように、主権者教育と若者の視点を行政に生かすことを目的に、昨年の9月から準備し、質問する高校生とやりとりをしながら進めてまいりました。保護者の皆様には御理解を頂き、また学校関係者の皆様、各担当課の皆様にも御協力を頂き、開催することができました。心から感謝申し上げます。それから、傍聴の皆様も長時間大変にありがとうございました。

高校生議会は今後も継続して高校生のアイデアを議会活動でも生かし、若い人たちが故郷に魅力と誇りを持てるようなまちづくりを目指して、議員一同頑張ってまいりたいというふうに思っております。

甚だ簡単ではありますが、お礼の挨拶といたします。本当にありがとうございました。

堀研二郎広報広聴委員長 以上で、本日は終了となりますが、このあと生徒の皆さんは記念撮影をお願いします。そのあとアンケートの回答をお願いします。

傍聴者の皆様におかれましても、傍聴者アンケートの回答に御協力をお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

午後3時55分 終了